

会員の
ひろば

私のお薦めコーナー 『札幌五輪のレガシー施設を訪ねて』 —競技会場編—



知 本 康 男

1. はじめに

コンサルタンツ北海道の本号が皆さまのお手許に届くのは北京冬季オリンピックがちょうど開幕した頃でしょうか。コロナ禍ではこのような超ビッグなスポーツイベントがあると、在宅生活でも少しは退屈を凌げるのではないのでしょうか。そして昨今では札幌市が 2030 年オリ・パラ招致へ舵を切り、その是非を問う議論が散見されます。私個人的には札幌五輪 1972 での大興奮を覚えているので、是非もう一度札幌でオリンピックゲームを体感したいと考えています。と言うことで 50 年前に整備された札幌五輪のレガシーと言える競技会場や施設を訪ねてみました。

2. 冬季オリンピック競技

皆さんは冬季オリンピックの競技って幾つあるかご存知ですか？現時点では 15 競技になります。きっと JOC 関係者でも直ぐには答えられないかもしれませんね。この 15 競技ですが雪上競技と氷上競技にカテゴライズすると意外とあっさり羅列することができます。

表-1 冬季オリンピックの競技一覧

雪上競技		氷上競技	
スキー系	① アルペンスキー	スケート系	⑧ スピードスケート
	② クロスカントリースキー		⑨ ショートトラック
	③ スキージャンプ		⑩ フィギュアスケート
	④ ノルディック複合	そり系	⑪ ボブスレー
	⑤ バイアスロン		⑫ リュージュ
	⑥ フリースタイルスキー		⑬ スケルトン
他	⑦ スノーボード	他	⑭ カーリング
			⑮ アイスホッケー

これが種目となれば昔はシンプルに分けられていましたが、昨今は混合とか団体とか複合とかで各競技とも確実に種目数が増えています。メダルの数も増えるし、観戦している側もゲーム性が高まって面白いのではないのでしょうか。ちなみに 1972 年の札幌五輪では、表-1 中の番号で⑥、⑦、⑨、⑬、⑭の競技がまだ無かったかと思います。

3. 札幌五輪 1972 の競技施設

私なりに厳選したレガシー施設（競技会場）を 1 日かけて巡ってきましたので、ここで紹介いたします。なお、昨年の東京オリンピックで話題になったピクトグラムですが、これ以降に掲載する写真内には当時のピクトグラムを表示します。

まず始めは開会式が執り行われた真駒内屋外競技場です（写真-1）。開会式は TV の生放送で観ましたが、ファンファーレが鳴り響き、天皇陛下の開会宣言、そして聖火を運ぶ純白コスチュームのスケーター等、子供ながら大きな感動を覚えた瞬間でした。この会場ではスピードスケート競技が行われオランダのシェンク選手が席捲した記憶があります。その後は札幌マラソン、アジア冬季大会、ユニバシアードそして野外コンサート等の利用がありましたが、最近ではテニスやフットサルコートとして活用されており、施設全体の老朽化から大きなイベントは開催されていません。

つぎに写真-2 は手稲山のアルペンスキー会場です。写真には競技運営ハウスらしきまさにレガシーな建造物も写っていますね。手稲山では男女大回転と男女回転の 4 種目が行われました。このうち男子大回転コースは既に閉鎖されています。50 年が



写真-1 開会式が行われた真駒内屋外競技場

経過して立木も回復しており、よほどマニアックなバックカントリースキーヤーしか近づかないと思います。ところで滑降(ダウンヒル)種目はどこで行われたかご存知ですか？札幌近郊のスキー場にはFIS基準を満たすコースがないため、なんと恵庭岳南西斜面に札幌五輪だけのための期限コースを整備して競技が行われました。支笏湖に飛び込みそうなプレジャンプと選手が評していました。現在はリフト跡地の基礎コンクリが残るだけとのことです。



写真-2 アルペン女子大回転コース(手稲山)

日の丸飛行隊(純ジャンプ陣)が見事に金・銀・銅メダルを独占したのが宮の森シャンツェです(写真-3)。まさに日本ジャンプ界の金字塔を打ち立てた聖地です。でも、現在は訪れる人も少なく、残念ですがひっそり感が漂っていました。

逆に今や市内観光ルートが目玉となったのが大倉山シャンツェです(写真-4)。二日前の金メダリストである笠谷選手は1本目2位につけたものの、2本目は失速ジャンプで7位に沈んでしまいました。スタンドを埋めた4万人の大観衆の声援や期待は大きなプレッシャーとなったのでしょうか。

つぎは“氷上のF1”と呼ばれるボブスレー競技の会場です。写真-5は競技コースのゴールハウス



写真-3 金銀銅を独占した宮の森シャンツェ



写真-4 今や観光地となった大倉山シャンツェ

付近です。テイネスキー場へ上る道路から見える距離にあるのですが、夏季は草木でその存在が殆ど認識できません。コース内は土石で埋まっている所も多く、コンクリート構造物の損傷も見られ、まさに廃墟マニア垂涎のサイトです。コンクリート製のバ



写真-5 手稲のボブスレー競技コース(ゴール付近)

ンクカーブはその老朽感も相まって見事な曲線美として私の眼には写ります。ここは道路から徒歩 1 分ですが、さらに少し奥に(藪を漕いで)進めば照明タワーや電光掲示板跡もあり、まさにレガシー感満載です。

手稲山のリュージュコースは撤去されてしまいましたが、藤野にはリュージュコースが健在です。HP を調べるとリュージュ体験が可能とあり、なんとスケルトン滑走も出来るとのこと。スリルを好む方は是非チャレンジを…。ちなみにリュージュとはフランス語で「木ざり」の意味です。このコースでは日本人選手の“りんごちゃん”が活躍しました。



写真-6 藤野のリュージュコース

クロスカントリー競技(当時は“距離競技”と言っていた)の会場は真駒内距離競技場とありますが、実際は西岡水源地背後の低山地(自衛隊用地と森林研究所敷地)で行われました。申し訳ありませんが、この競技会場は本紙面に掲載できるような写真は撮れませんでした。ちなみに当時の距離競技は雪面の 2 本の溝に沿って足を交互に前後して進む走行スタイルのみでした。今で言うクラシカルです。

最後にフィギアスケート競技のメイン会場となった真駒内屋内競技場を写真-7 に示します。ここで閉会式も行われました。米国の妖精ジャネット・リンの“尻もち”が多くの札幌市民の記憶に残っていると思います。この会場は体育館としても現役ですが、昨今はジャンタレコンサートの聖地として有名ですね。今やゴールデンタイムで放送されるほど人気がありショウアップされたフィギアスケート競技ですが、実は昔はとっても地味な競技でした。現在はショートプログラムとフリースケーティングの合計得点で競いますが、札幌五輪当時は「規定演技」



写真-7 閉会式が行われた真駒内屋内競技場

と「自由演技」で争われ、この「規定演技」は BGM もなく氷上に描かれた図形を只なぞるようにゆっくり滑ってその正確性と滑走姿勢を(審判員も氷上に立って)採点するという非常に地味なものでした。“フィギュア”の呼称はここ(図形)に由来します。この地味な演技状況は YouTube で確認あれ。そしてこの「規定演技」の会場となったのが美香保体育館(写真-8)です。



写真-8 美香保体育館

4. おわりに

今回は主だったレガシー施設を紹介させて頂きました。頑張れば 1 日で巡ることが出来ます。

本誌の 135 号～ 142 号では『私とオリンピック』との特集で投稿文を連載しております。書棚からバックナンバーを引っ張り出してみては如何でしょう。私の投稿文で誠に恐縮ですが 139 号には札幌五輪のトリビア情報を紹介しております。実はこの続編も鋭意企画中です。

知 本 康 男 (ちもと やすお)

技術士(建設/応用理学/総合技術監理部門)

基礎地盤コンサルタンツ(株) 北海道支社

